

生彩を放つ蕎麦



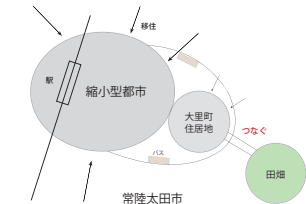
主旨

敷地は、**常陸太田市大里町**である。

古くから**蕎麦作り**が有名であった。昨今は、他の農村と同様に人口減少が進み、後継者が少ない金砂郷地区の農業を中心とする地域産業も衰退していくだろう。結果的に、**商業などの施設や住居が駅周辺に集約**される一方、田畑（農地）を所有している**農家は、容易に移動・集約できない**といった問題を抱えることになるであろう。

上述の様な背景を鑑み、この提案では、地域に根差し日常性を持つ蕎麦の可能性に期待しながら、駅周辺（集約されるであろう居住地）と農村（蕎麦畑）の境界に、それらをつなぐ**地域の新たな架け橋**となるプラットフォームを設計する。

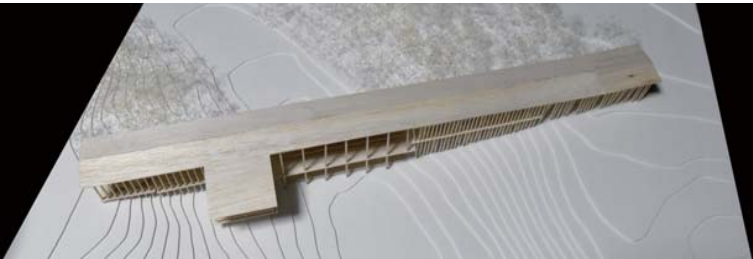
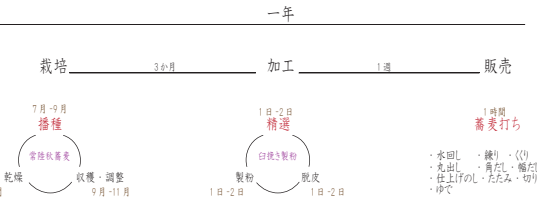
コンセプトダイアグラム



日本では、少子化が進み空き家が多くなってきた。

そこで昨今の現状を踏まえ都市計画では、都市計画マスタープランを唱え**縮小型都市**（立地適正化計画）が進められている。縮小型都市では、生活の基盤となる場所を駅周辺に置いて、商業施設、住居地域を集めることでコンパクトにエネルギーを節約できるだろうという考え方である。移動は、公共交通機関を使い、車などは最低限に抑える姿勢である。提案では、そのような現状を理解しつつ移動が厳しい田畑を所有する方々の新たな生活と農村の躍動感を表現できるように設計した。

蕎麦生産活動



上空からの視点

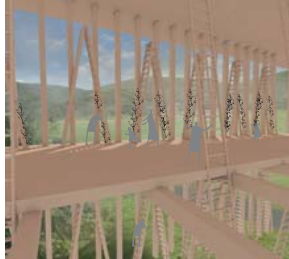
地域特産物販売、蕎麦レストラン
柱は、1.5mスパンで中間柱に設けた。この地で有名な、常陸秋蕎麦を地域の食べ方で食べることができる。また、常陸太田での特産物を販売する場所を取り入れた。下層には、保存に厳しい常陸秋蕎麦の保存庫を半地下とすることで、一年中美味しく提供できるだろう。

製粉場コミュニティセンター
柱は、6mスパンで疎に設けた。この施設建設での生彩が一番感じることができるところである。水車から動力を得て歯車など機械的に動き面白くなるように考えた。コンパクトの利用があり、地域の集金などが開かれ賑わいを感じる事が出来るだろう。

蕎麦乾燥兼事務所
柱が1mスパンで密に設けている。梯子と柱で揺れの加減を変える。梯子は、乾燥と搬送の役割を果たしている。乾燥の時期には、収穫した蕎麦を運び入れる梯子を利用者にも感じて体験してもらえ。職人と利用者の距離を縮めることで、こころよく感じることのできる農村を知ってもらえと思う。またここで、自然豊かな大里町を感じてもらい農村だけの躍動する生活感を楽しんでもいい。



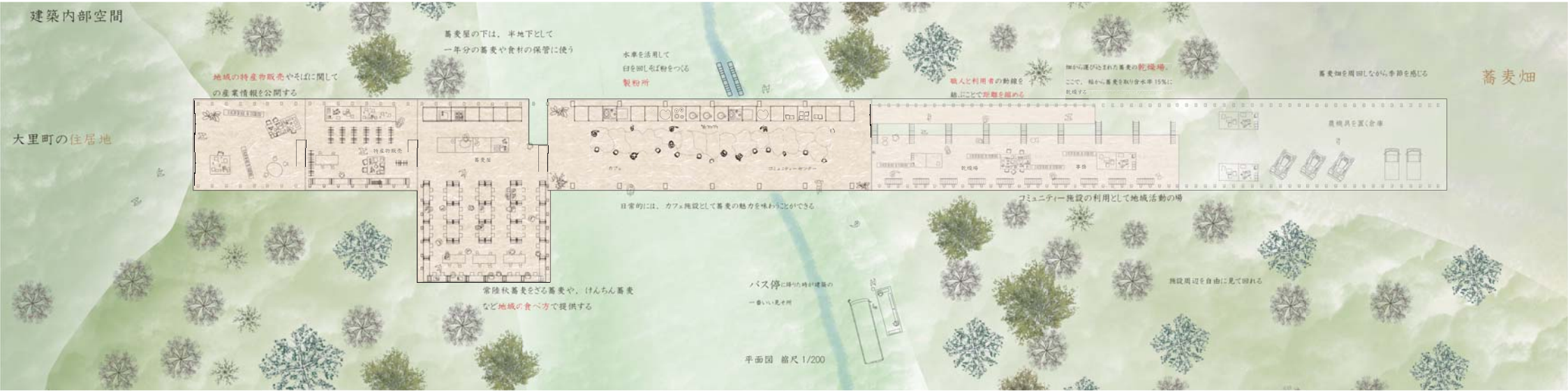
断面図 1/400



蕎麦の乾燥場



製粉場コミュニティセンター（兼カフェ）



蕎麦畑